

茂庭地区は、農耕地に恵まれなかつたせいか、かなりあちこちに点々と畑地をもっていたようである。もっとも近年は、これらのうち支沢の奥に設けられていたものは、その多くが放棄されているようだが……。

左岸に水路が走っている。岩掘地区に農業用水を引いているものだろうか。手入れされた水路は、今も現に利用されていることを示している。

杉の美林と桑畑跡をぬけて更に進むと二俣となり、右俣に入る。やがて二〇坪の滝。この沢で目立った滝はこれ一つである。下三分の二ほどは左岸を、あとは右岸に移って直登する。見た目以上にホールドもあつて、比較的楽に登れた。

水量もめっきり減ってきた。もう源流も近い。兩岸にいくつもの炭焼き釜あとを見る。燃料革命は木炭を

追放し、炭焼きはごく一部で行われるだけとなつてしまつたが、盛時の名残はあちこちで見られる。

一一時〇五分、ほとんどヤブこぎ

白根沢

L
一九八一年五月三一日

白根沢入口に車を置いて遊行開始。

きれいな冷たい水だ。一〇分も歩くと、最初の小滝が出てきて、そのあとナメとなる。白根沢の特徴はこのナメにあり、途中部分的に途絶えることはあつても、ほぼ源流まで続いていた。

右に左に小さな屈曲を繰り返す沢を登つてゆくと、左岸によく手入れされた踏跡が出てきた。部分的にはコンクリートの石積みなどがあつて、

なして尾根に出る。尾根には踏跡があつた。
(記)

「タイム」 出合(八：一五)↓二俣(九：三〇)↓尾根(二一：〇五)

造林用として、あるいは農業用水の管理用として、頻繁に利用されているようだ。

八時四五分、取水ダムに着く。半分壊れかけた小規模なダムである。左岸の踏跡は、ここから幾分不明瞭となったが、まだ先へのびている。

よく育つた杉林の中をぬけて、九時ちょうどに松峯沢出合に着く。滝の出でこないのがさみしい。「こんな岩質なんだから、傾斜さえついで

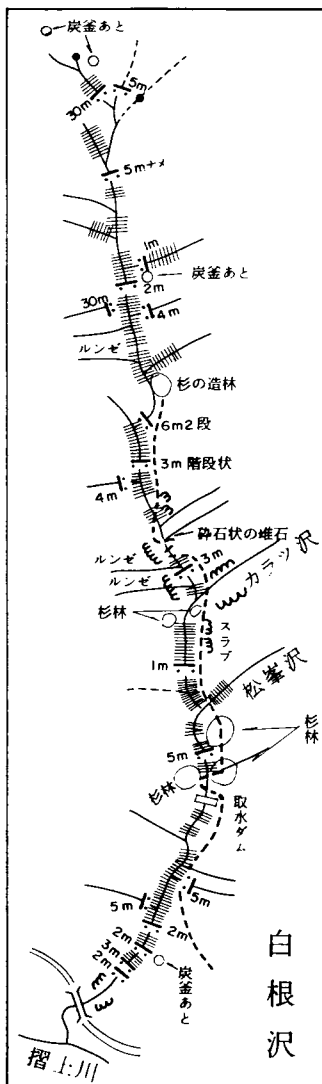
くれば滝になる」と、先に望みをた
くす。

九時二〇分、二
番目の支沢である
カラツ沢出合。相
変らずナメの連続
だ。

左岸からガレ沢が二本合流する。
どちらも砕石として今すぐ使えるよ
うな大量の土砂を、白根沢に押し出
してきている。やがて、植林後一〇
年程を経過した杉の若い造林地に着
く。かすかに続いていた踏跡も、こ
こで終わっている。

またしばらくナメを歩くと、右岸
から三〇〇程のスラブ滝が入ってい
る。たまには滝も登りたいので、こ
の滝を直登してみる。

沢幅が狭くなり、水量も減ってき



た。ミズナ、アイコなどの山菜を摘
みながら登る。

一 一時四〇分、沢が二分した。右
沢はすぐ上でカレ沢になっているが、
先はまだありそうである。左沢はす
ぐまた二つに分かれ、左側は三〇〇
程の滝となっている。三人がそれぞ
れの沢を少し登って偵察した結果、
結局一番左の沢に入る。三〇〇の滝
を直登した萩原君の弁、「一番最後
のところがちよっとしんどかった」。
すぐ水もかれる。カモシカの足跡

がいったばいついた、けもの道をたど
ったら、しつかりした踏跡に出た。

一二時一〇分。(記)

- 「タイム」 白根沢出合(七:五〇)
- ↓松峯沢出合(九:〇〇) ↓カ
- ラツ沢出合(九:二〇) ↓沢終
- 了(一二:〇〇) ↓踏跡(一二:
- 一〇)